

『知の生産への飛躍』

LIBRARY ICHIKO 136 AUTUMN 2017 10月31日 発売予定

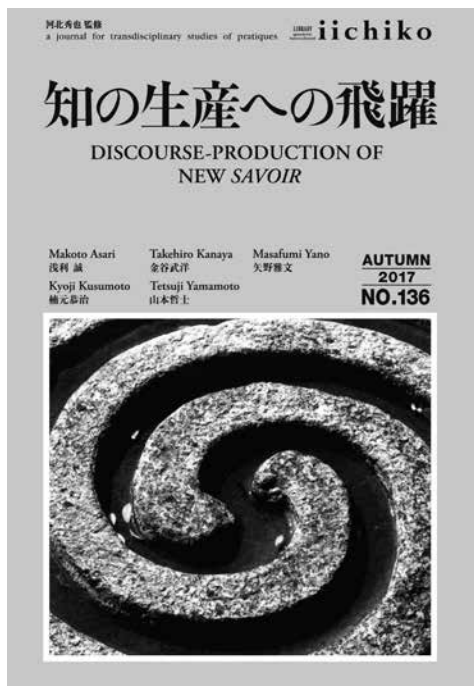
概念言表が新たに作られただけでは概念空間とはならない。概念と概念との関係が概念空間となり、言表の織りなす言説がそこに編成されるが、その言説生産が述語的になされるか主語的になされるかで、まったく違ったものになる。本誌の三一年間の文化生産の営みと蓄積の中で、世界第一線の研究者や日本の先達の偉大な所業を学びながら、やっとその地盤にまで辿り着いた。哲学地盤であり文化地盤であり、歴史〈現実〉の地盤である。

しかし、その地盤は、近代形成の過程で活用されながら、反転され、同時に徐々に忘却され、記憶喪失の中で消し去られようとしていく。日本語が主語文法に転倒され、述語言語を忘却し、技術科学が分離客観主義一辺倒になり、非分離技術を忘却し、経済は商品一辺倒になり、資本を忘却し、生活社会は規則に覆われ、場所の幻想・環境が忘却され、アートは対象を模写イメージするだけで、対象自体を喪失しているためだ。つまり、生命的時空、表現的時空、歴史的時空、美的時空の〈地盤〉が転倒され、現実喪失の「現実性」がすべてを覆ってしまったからだ。この近代移行への断絶に、かつて日本人は果敢に立ち向かってきた。しかし、産業的社会的経済の行き詰まりの先への断裂・切断への連続には、躊躇しているのも、地盤喪失を直感しているためである。

だが、地盤は確実にある。日本文化が数千年にわたって形成し蓄積してきた述語制文化の多様にして固有な〈場所〉地盤である。日本語はそれを文法転倒されても保持し続けているし、方言はかろうじて残滓しており、伝統技術は消滅寸前でありながらも存続し続けているし、何よりも私たち自身の身体的・生命的な遺伝子変えはなされてはいない、無感情のエイリアンへは分岐しなかった。つまり、非自己関において確保されている。

西欧において数百年、日本において数百年の主語制様式（客体への分離綜合）への浮上は、もはや機能停止状態の徴候にあるが、その下の地盤の普遍的な述語制様式は残滓している。それは、日本列島の地形形成の物質的構造と環境生態化を記憶化した、有機的生命文化遺伝子として、場所ごとに残存し、ナショナル特化されたものではなく、新たな普遍性への指針となりうるものだ。その概念空間へ、実際の言説生産を編成し、対象・概念・技術・理論・主題を構成して、具体實際を暮らしに生かせるものにしていくための、新たな〈知〉の飛躍がなされねばならない。本誌は、その切断の連続、連続的非連続に、地盤の明証化をもって新たな段階水準を突き進み、継承への通道を拓いていく。欲望の元の〈享楽〉の疎外地盤であり、〈もの〉の表出地盤である。

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇一八年一月末発行予定



A5 変形 128頁 定価(本体 1,500円+税)

【監修・アートディレクター】
河北秀也(かわきた ひでや)
1947年生まれ。
日本ペリエールアートセンター主宰。
著書に『デザイン原論』など。
本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】
山本哲士(やまもと てつじ)
1948年生まれ。
政治社会学、ホスピタリティ環境学。
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、
『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』
『フーコー国家論』ほか多数。

ご注文は「RICK」→ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

知の生産への飛躍

LIBRARY ICHIKO 136 AUTUMN 2017 1500円(税別)

ISBN 978-4-938710-31-6 C1010 ¥1500円

書店名

部数